

多摩クリニックが開院



東京千代田区富士見
日本歯科大学新聞
発行兼 中原 泉
編集人
発行日 偶数月末日
定価 1部10円
編集室 (〒951-8580)
新潟市中央区浜浦町1-8
☎ 025 (267) 1500



本学のシンボルマーク



多摩クリニック開院式でテープカットを行う中原理事長・学長(中央)
左から羽村附属病院長、菊谷多摩クリニック院長、住友生命歯学部長、近藤校友会長

東小金井駅前 に三百余名が参列

▽このほど竣工した世界初の口腔リハビリテーション施設・多摩クリニックの開院式が十月十七日、クリニックス玄関前で午前十一時から挙行された。

▽シヨンスタッフは、十月十七日、クリニックス玄関前で午前十一時から挙行された。

▽中甸に挙行された。東小金井駅前の玄関前式場には、三百余名の関係者が参列した。

日本歯科大学口腔リハビリテーション多摩クリニックの開院式は、十月十七日、クリニックス玄関前で午前十一時から挙行された。

好天に恵まれた秋の日、JR中央線を降りた参列者たちが続々と駅前の式場に向かう。改修を終えた東小金井駅、ホームに降り立ち、駅構内を抜け改札口から多摩クリニックまで歩いて一分。JRのホームからこの間、段差はほとんどない。係員の誘導で、正面玄関前に並べられた椅子に、八十余名の来賓が順次着席する。

時刻の午前十一時、中原理事長・学長を中央に、菊谷武多摩クリニック院長、住友雅人生命歯学部長、羽村附属病院長、近藤勝校友会長が並び、司会者の合図でテープカットを行うと、参加者から大きな拍手がわきおこった。

次いで入り口エントランスホールでは、中原理事長・学長はじめ関係者が出迎えるなか、開院式

参列者たちはクリニックス内の施設を見学した。一階に開店した介護食品ショップ「はつらつ」、システムキッチンを設置した栄養食指導室、摂食機能訓練室やテレビモニターを備えた言語訓練室など、斬新な諸施設が目まぐるしく。

最新の機器を設備したクリニックス内を見学したあと、十一時五十分から三階カンファレンスルームにて、開院記念披露宴が開催された。司会はタレントで歯科医師の中田彩先生。

まず中原理事長・学長は「このクリニックは今年一月に着工し、十か月あまりで完成した。これも準備委員長の住友生命歯学部長はじめ、鹿島建設など内外の関係者が幹線のようにすすめてくださったのおかげだ」と感謝を述べた。

つづいて菊谷院長が挨拶したのち(要旨三面)、来賓の稲葉孝彦小京市長、坂口光治西東京市長、茨城県の草間吉夫高萩市長が紹介され

参列者たちはクリニックス内の施設を見学した。一階に開店した介護食品ショップ「はつらつ」、システムキッチンを設置した栄養食指導室、摂食機能訓練室やテレビモニターを備えた言語訓練室など、斬新な諸施設が目まぐるしく。

最新の機器を設備したクリニックス内を見学したあと、十一時五十分から三階カンファレンスルームにて、開院記念披露宴が開催された。司会はタレントで歯科医師の中田彩先生。

まず中原理事長・学長は「このクリニックは今年一月に着工し、十か月あまりで完成した。これも準備委員長の住友生命歯学部長はじめ、鹿島建設など内外の関係者が幹線のようにすすめてくださったのおかげだ」と感謝を述べた。

つづいて菊谷院長が挨拶したのち(要旨三面)、来賓の稲葉孝彦小京市長、坂口光治西東京市長、茨城県の草間吉夫高萩市長が紹介され

参列者たちはクリニックス内の施設を見学した。一階に開店した介護食品ショップ「はつらつ」、システムキッチンを設置した栄養食指導室、摂食機能訓練室やテレビモニターを備えた言語訓練室など、斬新な諸施設が目まぐるしく。

最新の機器を設備したクリニックス内を見学したあと、十一時五十分から三階カンファレンスルームにて、開院記念披露宴が開催された。司会はタレントで歯科医師の中田彩先生。

まず中原理事長・学長は「このクリニックは今年一月に着工し、十か月あまりで完成した。これも準備委員長の住友生命歯学部長はじめ、鹿島建設など内外の関係者が幹線のようにすすめてくださったのおかげだ」と感謝を述べた。

つづいて菊谷院長が挨拶したのち(要旨三面)、来賓の稲葉孝彦小京市長、坂口光治西東京市長、茨城県の草間吉夫高萩市長が紹介され

参列者たちはクリニックス内の施設を見学した。一階に開店した介護食品ショップ「はつらつ」、システムキッチンを設置した栄養食指導室、摂食機能訓練室やテレビモニターを備えた言語訓練室など、斬新な諸施設が目まぐるしく。

最新の機器を設備したクリニックス内を見学したあと、十一時五十分から三階カンファレンスルームにて、開院記念披露宴が開催された。司会はタレントで歯科医師の中田彩先生。

まず中原理事長・学長は「このクリニックは今年一月に着工し、十か月あまりで完成した。これも準備委員長の住友生命歯学部長はじめ、鹿島建設など内外の関係者が幹線のようにすすめてくださったのおかげだ」と感謝を述べた。

つづいて菊谷院長が挨拶したのち(要旨三面)、来賓の稲葉孝彦小京市長、坂口光治西東京市長、茨城県の草間吉夫高萩市長が紹介され



三ツ林教授、衆院議員に当選

生命歯学部内科学講座の三ツ林裕巳教授は、十二月十六日に行われた第四十六回衆議院議員選挙に、自由民主党から立候補して当選した。

三ツ林教授は埼玉県幸手市出身。祖父幸三氏の時代からの地盤をうけついで、同県東北部を選挙区とする埼玉十四区から立候補し、今回初当選した。



道路まで人があふれた玄関前の式典会場

た。ついで設計者と工事関係者に感謝状が贈呈され、代表して鹿島建設の服部厚志東京建築支店長が謝辞を述べた。

つぎに多摩クリニック関係者にあたって、校友会より記念品「からくり時計」が寄贈されることになり、現在作製中のため近藤校友会長から同日録が手渡された。

乾杯に立った住友生命歯学部長は「東小金井の駅は昭和三十九年の秋、全額地元負担の日本初の請願駅として誕生した。駅前には、それ以前から本学のグラウンドが広がっている。このゆかりの地に、世界初の口腔リハビリテーション施設である多摩クリニックが開設されたことは意義深い」と述べた。

披露宴では、三百余名が会場を埋め尽くし、三階テラスやラウンジにも人があふれた。午後一時すぎ、羽村附属病院長が閉宴の辞を述べた。

平成25年度 日本歯科大学歯学会総会・大会

◇日時:平成25年6月8日(土)10:40~16:40(予定)
◇会場:日本歯科大学新潟生命歯学部
◇メインテーマ「インプラント治療を再考する」

大会長 又賀 泉 (新潟生命歯学部口腔外科学講座)
準備委員長 廣安一彦 (新潟病院口腔外科)

問い合わせ:Tel 025-267-1500(内線3236)
e-mail:hiroyasu@ngt.ndu.ac.jp

医療の安心・安全が求められ、とくに高齢者歯科医療において全身疾患を理解して対応することの必要性が叫ばれています。また歯科インプラント治療においては、偶発症について多くの報道がなされています。

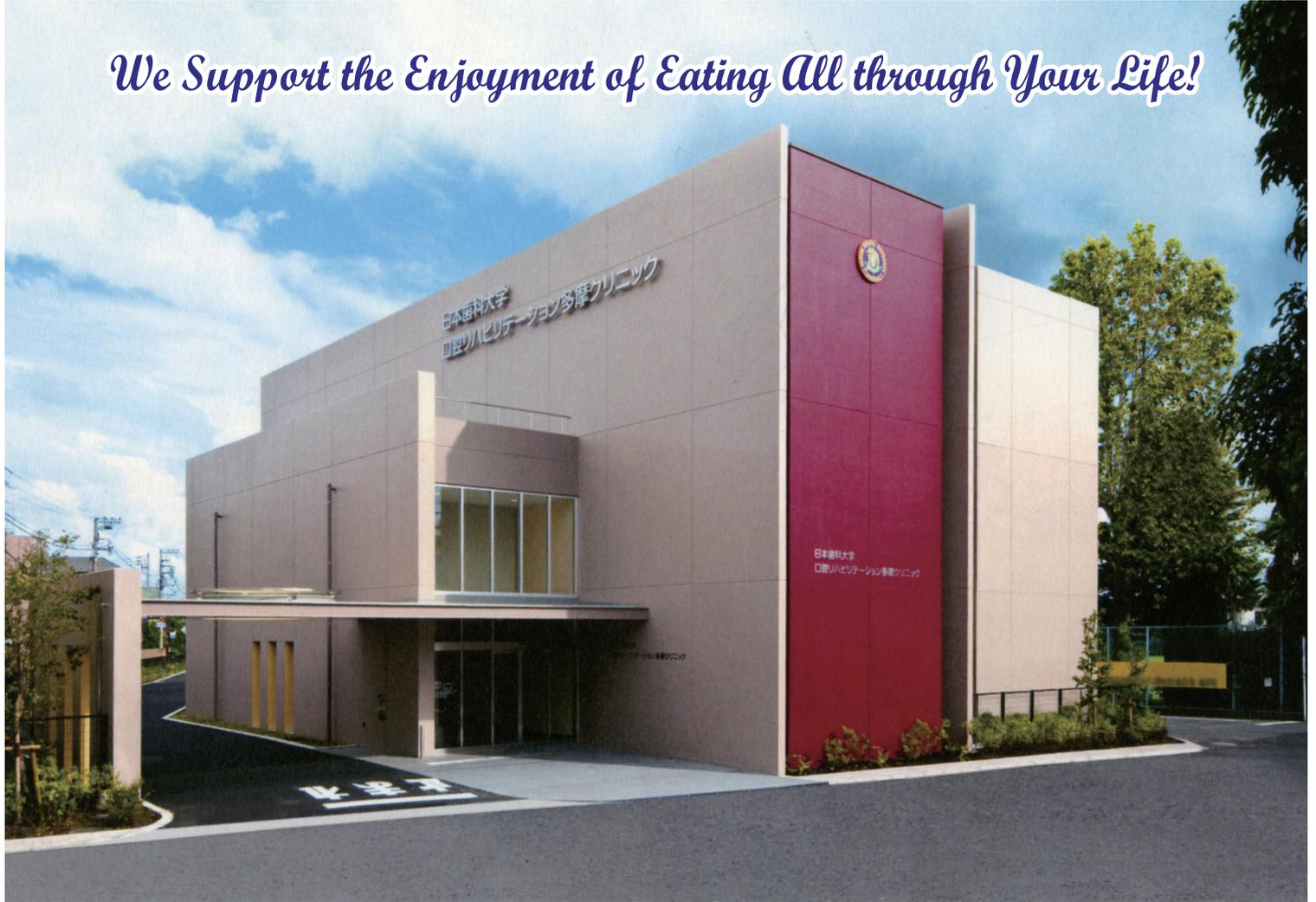
そこで、主に骨粗鬆症や癌の骨転移、多発性骨髄腫などの骨代謝異常疾患の投与薬の副作用として発症するビスフォスフォネート製剤による骨壊死について、姉妹校であるスイスのベルン大学頭蓋顎顔面外科学講座・飯塚建行教授をお招きし、ヨーロッパにおける現状について講演していただくことになりました。

またシンポジウムでは「インプラント治療を再考する」と題して、再生医科学、臨床解剖、埋入手術および上部構造体作製の問題など、4人の演者の先生と一緒にもう一度歯科インプラントの基礎から臨床を見直してみたいと企画しました。

▼多摩クリニックのコンセプトは、「私たちは生涯を通じておいしく食べることを支えます」▼摂食障害・嚥下障害者の口腔リハビリテーションとともに、介護や療育に携わる家族や施設職員の方々のために、調理

教室、介護教室、離乳食教室などを開催▼また口腔機能の低下に伴う栄養状態の不良、生活機能の低下を防ぐため、年に一回「食の元気塾」を開催予定▼スタッフ一同が「おいしく食べること」の実現を支援する▲

We Support the Enjoyment of Eating All through Your Life!



私たちは、生涯を通じておいしく食べることを支えます



車椅子などに対応したX線撮影装置



障害児・者用の歯科ユニットも完備



栄養指導室では介護食教室も開く予定



TVモニターを備えた言語訓練室

(写真上)東小金井駅側から見た正面外観

【建物概要】

鉄筋コンクリート造、3階建て、延床面積 約1,402㎡

【診療設備】

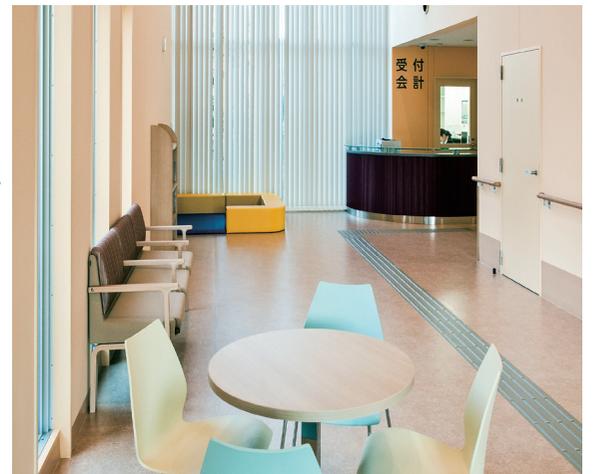
1階 摂食機能訓練・言語訓練室5室、介護食ショップ
2階 歯科ユニット4台（摂食機能訓練および嚥下内視鏡検査用ユニット2台、障害児・者診療用ユニット1台、口腔外科用ユニット1台）、X線テレビ、歯科用CT、全身麻酔器
3階 カンファレンスルーム、研修室

【スタッフ】

歯科医師、医師、言語聴覚士、歯科衛生士、管理栄養士、看護師

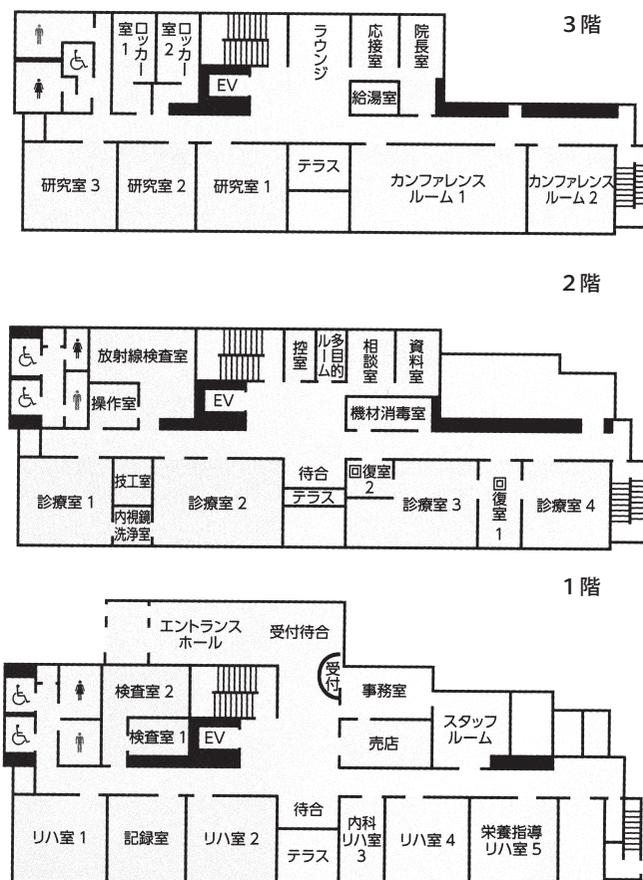
【診療内容】

歯科診療は、地域の先生方からの紹介による。



吹き抜けの1階エントランスホール

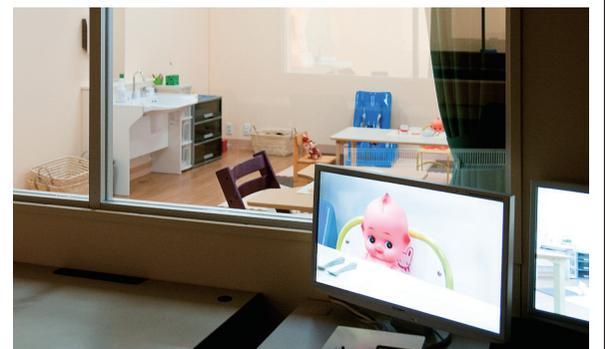
- 1) 摂食・嚥下障害者に対するリハビリテーション
- 2) 言語障害に対するリハビリテーション
- 3) 障害児・者歯科患者に対する歯科治療
- 4) 口腔外科小手術
- 5) 放射線診断
- 6) 介護教室、離乳食教室の開催
- 7) 食の元気塾の開催



各階配置図（延床面積はおよそ424坪）



介護食品が並ぶ専門ショップ「はつらつ」



訓練室の隣の記録室とモニターで見守る

歯と口腔の健康づくり

茨城・高萩市と連携協定をむすぶ

本学では十月十七日、茨城県高萩市と「歯と口腔の健康づくりに関する連携協定」を締結した。同市との調印式は、多摩クリニック開院式の合間に、中原泉理事長・学



長と高萩市の草間吉夫市長が協定書に署名した。このたびの協定では市民の健康増進に向けて、(1)歯と口腔の健康づくりに関する情報の収集や広報、(2)歯周病の予防対策

および保健指導などで連携協力する。調印式のあと、中原理事長・学長は「日本歯科大学では海外の大学と学術交流や共同研究のためさまざまな協定を結んでいる。国内の自治体とは初めてで、これを機に高萩市民の健康の向上に役立ちたい」と挨拶した。つづいて草間市長は、「高萩市では大学の人的・知的資源を活用させていただくため、今まで地元と相互協力の協定を結んできた。貴学で六校目となるが、高萩市が口腔の健康づくりのモデルケースになるよう、積極的に協力したい」と述べた。

協定書に調印する中原理事長(中)と草間市長(右)、左は住友生命歯学部部長



開院記念披露宴で抱負を述べる菊谷院長(10月17日)

「ほかに子と同じように上手に食べさせたい」。本来食べることはかけがえない楽しみであるのに、一杯のスプーンで食べるだけで精一杯、命がけという状況の人たちがたくさんいる。そんな人たちのために本学では、平成十三年から飯田橋の附属病院で口腔リハビリテーションセンターを開始した。口

開院にあたって

多摩クリニック院長 菊谷 武

皆さまのご尽力で本日、開院を迎えることができました。「一口でもいから自分で食べたい」「ほかに子と同じように上手に食べさせたい」。本来食べることはかけがえない楽しみであるのに、一杯のスプーンで食べるだけで精一杯、命がけという状況の人たちがたくさんいる。そんな人たちのために本学では、平成十三年から飯田橋の附属病院で口腔リハビリテーションセンターを開始した。口



司会の中田彩先生(右)

「また口の機能低下予防のゲートキーパーとして、一生、口から食べることにできる社会への貢献をしていく。十月初旬の内覧会では四百人を超える方々が見学され、たくさんの方々の言葉を頂戴した。私たちスタッフ一同は、期待に応えられるよう努力したい。」



菊谷院長と多摩クリニックのスタッフが勢ぞろい

記念講演に400人

口腔リハビリテーション多摩クリニック開設記念講演会が、十一月十一日に小金井市民交流センターにおいて開催された。この講演会は本学が主催し、小金井市後援によるもので、午前十時の開演時にはすでに四百名近くの参加者が訪れ、口腔リハビリテーションに対する関心の高さがうかがえた。

1階ホールからくり時計



「からくり時計」が設置された(写真)。これはクリニック開院を記念し、日本歯科大学校友会本部と学内校友会東京支部とが寄贈したもので、時計と分針は本学のキャラクター、文字盤には大白歯と校章をデザインした。日曜日を除く毎日十時、十二時、十三時、十五時に校歌のメロディーが流れる。

初介護食品専門店「はつらつ」開店。多摩クリニックの一階に、「食のサポートショップ」が開店した。同店では濃厚流動食、トロミ調整食品、わかか食品、水分補給食品とともに、障害のある方々のための飲食用カッブ、スプーンなど食具や口腔ケア用品を扱う。開店時間は日曜・祝日を除く月曜の十時から午後五時まで、初の介護食品専門店として全国から注目を集めている。



小金井市で開催された多摩クリニック開設記念講演会会場の市民に食育の大切さを講演する田村准教授

新潟短期大学学長に任命する(新潟生命歯学部口腔外科学講座) 主任補 谷村 龍三 病院事務部に配置換を命ずる(生命歯学部用度管理課) 口腔リハビリテーション多摩クリニック事務長併任を命ずる 平成二十四年十月一日 本学

念ながら、その一口が命がけだったり、食べることでだけ精一杯だったりという場面もある。日本歯科大学では飯田橋の附属病院につづく二つ目の新しい専門クリニックを開設した。食べる機能の精密な評価を行い、生活の環境に配慮したリハビリテーションの方法やケアの方法を提案して実施している」と述べ、外来診療や訪問診療における口腔リハビリテーションについて紹介した。つづいて田村文彦准教授(口腔リハビリテーション科)は、「子どもの発達を促す食支援」と題して、「私たち人間は、母乳やミルクを飲みながらやがて離乳食を食べ、そして自分で食べられるようになるためにはある程度の決まりごとがある。上手に食べるためには食べる意欲が大切である」と述べて、「食べることを育む」という、発達を促す意欲の重要性を強調した。

偶発症を引き起こさない、安全な歯科治療のために

最新刊

歯科診療で知っておきたい 全身疾患の知識と対応

著 近畿大学医学部麻酔科学講座講師 高杉嘉弘(67回卒)

A5判/カラー/426頁 定価9,450円(本体9,000円+税) ISBN978-4-7624-0680-5

主な掲載疾患 高血圧/虚血性心疾患/不整脈/心臓弁膜症/大動脈解離・大動脈瘤/心筋症/成人先天性心疾患/糖尿病/甲状腺疾患/血栓性疾患/貧血/血小板減少症/精神疾患/てんかん/慢性閉塞性肺疾患(COPD)/気管支喘息/膠原病/腎不全/脳卒中/神経・筋疾患 他

「はつらつ」開店。多摩クリニックの一階に、「食のサポートショップ」が開店した。同店では濃厚流動食、トロミ調整食品、わかか食品、水分補給食品とともに、障害のある方々のための飲食用カッブ、スプーンなど食具や口腔ケア用品を扱う。開店時間は日曜・祝日を除く月曜の十時から午後五時まで、初の介護食品専門店として全国から注目を集めている。

学建書院

〒113-0033 東京都文京区本郷2-13-13 本郷七番館 1F
TEL 03-3816-3888 FAX 03-3814-6679
URL http://www.gakkenshoin.co.jp

NDU HSDM

◇日本歯科大学・ハーバード大学卒業後研修コース◇ 合同CEコース 歯周治療を極める

沼部幸博 (生命歯学部歯周病学講座)



日本歯科大学コース修了式(10月7日)



Harvard Faculty Clubでの修了式(11月2日)
前列中央は修了証を手にする筆者、向かって右隣は久世先生、左隣はコース責任者のDr.Kim

十一月二日、米国ボストン・ハーバード大学のHarvard Faculty Club内でCEコース修了式が行われた。

本コースはハーバード大学歯科医学部の協力により、本学での十日間の講義と実習を日間の講義と臨床見学を本から効果的治療まで。インプラント治療を考へる前に、大学の優れた人材と最新の施設を最大限に活用するため企画された。コースの企画立案には、本学卒業のボストン在住、久世香澄先生が多大な貢献をされた。久世先生はボストン

ハーバード大学ユニットと定め、それらを軸とした、本学初の両大学合同開催のContinuing Education (CE) コースだった。メインテーマは「歯周治療を極める・基本から効果的治療まで」。

大学で教鞭をとる傍ら、ハーバード大学でも臨床教育に従事し、アメリカで歯周病専門医として活躍中の才媛である。コース開催に先立ち、四月八日に基調講演会を開催した。その後受講生を募集して、日本歯科大学ユニットに十二名、うち日本歯科大学およびハーバード大学ユニットに十一名の応募があり、六月から十月まで十回にわたり、歯周病学の講義と実習が行われた。

十月二十九日からはハーバード大学ユニットが開始予定だったが、東海岸に最大級のハリケーン「Sandy」が接近し、予定通りの開講が危ぶまれ、午後は休講となる波

乱の幕開けとなった。しかし翌日からは前日の講義を繰り下げながら順調に日程を消化し、最終日には、ハーバード大学歯周病科スタッフによるライブオペ二症例の供覧があった。さらに刻には日本歯科大学提供のチャリティコンサートが、ボストン市内のThe Edward M.Pickman Concert Hallで行われた。このコンサートは本コースの講師や受講生が運営に貢献し、その収益はBoston Children's Hospitalに寄贈された。

本学とハーバード大学とのつながりは、中原賞松澤歯科衛生士(東京)ベストハイジニスト賞を受賞した。同賞は歯科衛生士向け

名譽学長が同大学歯学部を卒業したことに始まる。約百年の時を経て再び、今回のような形で関係が得られたことは感慨深い。歯周病学に留まらず、他分野でも同様なCEコースが開催されることを望んでいる。

奨励賞で、松澤さんは、今春の同学会学術大会でのポスター発表「長期支援した自閉症を伴う侵襲性歯周炎患者の1症例」で受賞した。

外科の小林隆太郎教授は、社会保険診療報酬支払基金の審査の向上に寄与した功績により、厚生労働大臣表彰を受けた。表彰式は十月二十六日に厚労省で行われ、小林教授は、医科六十五名、歯科九名の関係功績者の一人として表彰された。

外務省で行われ、小林教授は、医科六十五名、歯科九名の関係功績者の一人として表彰された。

本学歯学部(東京)の事務部長を務めた瀧澤新治氏が十月五日逝去された。享年八十歳。瀧澤氏は昭和三十八年に学生部職員として本学に奉職し、庶務部長、事務部長などを歴任した。

本学歯学部(東京)の事務部長を務めた瀧澤新治氏が十月五日逝去された。享年八十歳。瀧澤氏は昭和三十八年に学生部職員として本学に奉職し、庶務部長、事務部長などを歴任した。



本学主催チャリティーコンサートのプログラム

竹澤大学院生(新潟)未知の筋組織を発見

大学院新潟生命歯学研究科硬組織粘膜炎比較形態学の竹澤康二郎院生は、側頭下窩に今まで知られていなかった筋組織があることを発見した。



側頭下窩

く側翼突筋との間に長さ二十〜三十ミリ、厚さ一〜三ミリの筋組織があることを発見した。その後十一月に開催された日本人類学会でこの新発見が発表され、日本解剖学会の英文誌には「Newly identified thin membranous tissue in the deep infratemporal region」と題する原著論文が掲載された。また十一月下旬発行の新潟日報「医療新世紀」欄でも大きく取り上げられた。

竹澤院生は研究のために解剖を行った二年前に、食物の嚥下機能に関わる口蓋帆張筋と咀嚼時に働

五十七例の解剖体から、同組織は頭蓋下部を起始とし、上咽頭収縮筋の外側面などにつづく未知の

点景 生命歯学部メモリアルホール



第44回歯学体(日本歯科学学生総合体育大会)は、鹿児島大学歯学部の主管により開催され、今夏の総合成績は29校中、生命歯学部5位、新潟生命歯学部22位だった

田中秀明臨研生(東京・麻酔) 荒川マラソンで人命救助

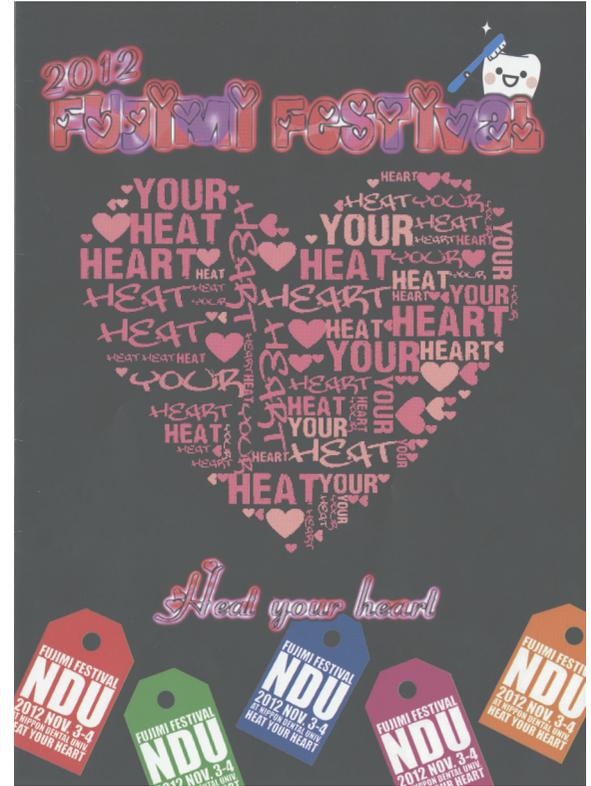


生命歯学部歯科麻酔学講座の田中秀明臨床研究生は、十月十三日、午前九時半スタートの2012荒川三十キロ秋大会に参加した。ゴール手前二

メートル付近でコース脇に倒れている人を発見した。まわりには観衆らしき人が困んでいる。すぐに駆けつけたが、心肺停止状態で脈は触れ

ず、ハンスオンリーCPR(胸骨圧迫心臓マッサージ)を始める。そして連絡を受けた大会運営本部の医師が持参したAEDをセットし、CPRを再開したところ脈と呼吸が戻った。意識は回復しなかったが、救急車が到着して病院に搬送した。後日、運営本部と地元消防署から無事に回復に向かい退院した。との連絡があった。

田中院生が救護処置を行ったことに対して、十一月十二日に来校した葛飾区消防署員が、東京消防庁消防総監からの感謝状を贈呈した。(写真)



瀧澤元事務部長逝去
本学歯学部(東京)の事務部長を務めた瀧澤新治氏が十月五日逝去された。享年八十歳。瀧澤氏は昭和三十八年に学生部職員として本学に奉職し、庶務部長、事務部長などを歴任した。